

## はしがき

本書は、関西大学経済・政治研究所「子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班」が、第I期の2010年4月～2012年3月に行った研究活動の成果の一部をまとめたものである。本研究班は「地域社会とリスクマネジメント—子どもの安全に関する研究とリスク・コミュニケーション・ツールの開発—」を研究テーマに掲げている。本研究班が開催した研究会、公開セミナー、産業セミナーの資料と講演録については、同時に刊行する『調査と資料』に収録している。

さて、子どもは国家の社会・経済の将来的な基盤を担う存在である。日本政府は、2006年3月に閣議決定された、第3期科学技術基本計画において、「人類の英知を生む」「国力の源泉を創る」「健康と安全を守る」という3つの理念を打ち出し、そのもとに6つの大目標を設定した。その一つが「安全が誇りとなる国～世界一安全な国・日本の実現」であり、その中目標として「国土と社会の安全確保」と並んで「暮らしの安全確保」の二つが掲げられている。このように社会の安全は、国家目標の一つとなっている。

本研究班では、特に、将来の国力の源泉となる子どもの安全について研究し、子どもが安全に暮らせる社会を実現するための提言やツールの開発を行って社会貢献することを目的としている。具体的には、ケータイ、インターネット、学校、個人情報、メンタルヘルスなどの事象と子どもの安全について、ソーシャル・リスクマネジメント（地域社会とリスクマネジメント）の観点から研究し、最終的にリスク・コミュニケーションのカードゲームである「クロスロード」の子ども版を作成することを目標としている。

本研究班は引き続き、第II期（2012年4月～2014年3月）の研究活動を行う。本研究班の活動が、子どもの安全やリスク・コミュニケーションに関心のある方に何らかの参考となれば幸いである。

2012年3月31日

子どもの安全とリスク・コミュニケーション研究班  
主幹 亀井 克之

